

# ⑤ 鳥海山

秀麗にして、農耕と信仰の山

2000(H12)年6月

鳥海山 2,237m



秋田県と山形県の境に、日本海の海岸から一気に聳える秀峰。  
ひろく農作の神として、また修験の靈山としてあがめられている。

2012.07

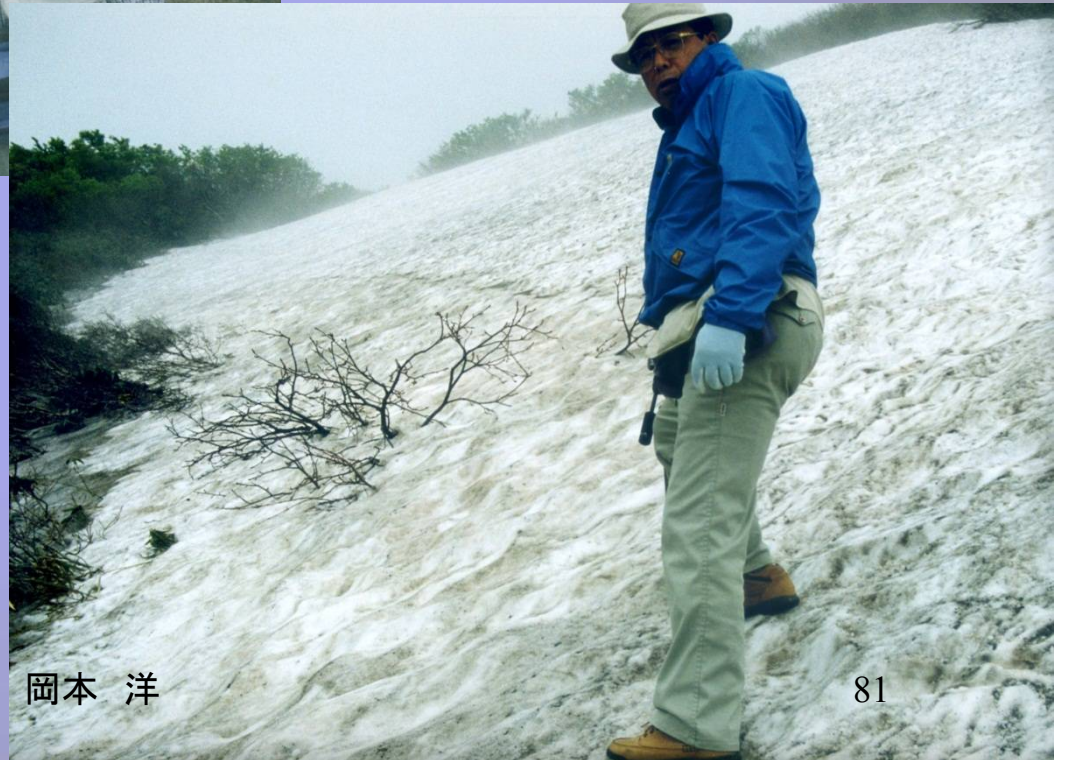
岡本 洋

89



# 鳥海山 2,237mに 挑戦

2000(H12).06.13



2012.07

岡本 洋

81



芭蕉が強い雨の中、象潟へ向けて越えた峠。その同じ日、ここに立つ。……  
実録では、6月16日(陽暦8月1日)なので少し違ったが。

2000(H12).06.14

三崎峠は、遊佐町と象潟町の間位置する峠。鳥海山の裾野が日本海に落ち込み、すさまじい断崖となっていて、江戸時代、秋田県南部沿岸の由利地方と庄内地方を結ぶ羽州浜街道の第一の難所であった。現在は、三崎公園として整備されているが、海沿いの険しい台地上に旧道が今なお残る。芭蕉はここを越え象潟(きさかた)の蛸満寺(かんまんじ)に向かった。



象潟(きさかた) 蚶満寺(かんまんじ)にて 2000(H12)06.14

「松島は笑うがごとく 象潟(きさかた)は怨(うらむ)がごとし」  
「象潟や雨に西施(せいし)が ねぶの花」

芭蕉

芭蕉訪問時の象潟は九十九島と呼ばれる海の景勝の地。文化元年、  
1804年の大地震で隆起し、以後今のよう<sup>岡本 洋</sup>な田畑の陸地となった。